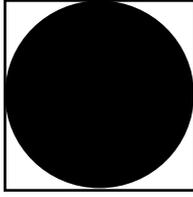


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 173

2025. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪 圭 輔

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

“失敗を恐れず、しかし失敗を恐れよ”

公益社団法人 日本美術教育連合理事 畑山 未 央

第8期より事務局理事を仰せつかりました畑山未央です。これまでお世話になった連合に少しでも恩返しができるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

先日、自身の研究活動の一環で、米国のロードアイランド州とカルフォルニア州にある、アート実践を重視している複数の学校の取り組みを視察してきました。その教師や生徒たちと交流をとる中で、彼らの多くに共通するマインドがあることに気づきました。それは、「リスクや失敗へのポジティブな正対」です。例えば教師は、積極的にリスク（＝行動がもたらす不測の影響、結果、可能性）をとる姿を生徒に見せることで、教室に居心地のよさを超えた挑戦の場を築こうとしていました。また、材料に関わる授業では、生徒は目の前の材料からイメージされる一般的な活用法を超えて、その特徴を活かしながら固定観念を崩すような扱い方をしてみるというプロセスがあり（「造形遊び」のようですね）、それも生徒にとって「リスクや失敗への正対」であるといえます。そこには、「自分にできることに気づける」、「飛び込んでみないとわからないことがある」、「新たな問いを生み出す」などというポジティブなマインドが付随しています。

我が国の美術科教育には、上記に似た価値として「思い通りにいかないことこそ学びである」という考えがあります。そして、例えば「つくり、つくりかえ、つくる」という課題解決の姿が教科の学びそのものとなり得る前提条件は、試行錯誤に柔軟な環境や支援があることだと思います。実際、視察先の学校には、教師にも生徒にも“失敗”への好意的な理解と支援体制が根付いているようでした。

ところで、視察先のある先生は次のようなことも仰っていました。「しかし、私たちは失敗を恐れるべきだ」。その意図は、「失敗の恐怖は、予測不能への不安、パフォーマンスの不安などとなって現れ、時に耐え難いものであるけれども、私たちが何かを乗り越え、前に進もうとするときの源でもあり、誠実な仕事のために必要なものなのだ」ということです。そんな「創造的な不安」は、新しい価値を生み出す際の原動力となり得るのでしょうか。

話が冒頭に翻ります。このたび、著名な先生方と並んで甚だ経験の浅い私が日本美術教育連合の理事という大役を拝命したところですが、私はこの不安を果たして創造的なものとしていくために、失敗を恐れず、しかし失敗を恐れながら、連合の発展のために新しいことにも挑戦していこうとしています。

令和7（2025）年度第15回定時総会 招集通知

総会記念講演会及び定時総会を、下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

□日 時：令和7（2025）年5月11日（日）

□場 所：明治学院大学 白金キャンパス 1252教室（予定）

□総会記念講演会（一般公開）13：30～15：00

講演者：海老塚耕一

方 法：対面及びオンライン配信により開催

□定時総会（会員のみ）15：15～16：15

方 法：対面及びオンライン配信により開催

ZoomミーティングID：897 8613 5728 パスコード：981082

議 案：①定款改定 ②令和6（2024）年度事業報告

③令和6（2024）年度決算 ④報告事項

総会議案書は、4月末より連合ホームページにて公開

出 欠：ご欠席の場合は、同封の委任状を必ずご送付ください。

研究局より

■第58回日本美術教育研究発表会2024実施報告■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 手塚千尋

概要

開催日時：令和6年（2024）年10月6日（日）9：00～16：30

会 場：明治学院大学白金キャンパス本館（東京都港区白金台1-2-37）

開催形態：対面+オンライン（Zoom）によるハイフレックス

参加者数：95名

内訳：

一般（海外）…4名、一般・会員（国内）…74名

学生・院生（海外）…3名、学生・院生（国内）…14名

発表件数：国内…27件、海外…4件

実際

本年度は、明治学院大学白金キャンパスを会場にオンライン併用によるハイフレックスでの開催となりました。オンライン投稿システム国内外合わせて31件の口頭発表がありました。国際局との協働により実現したInSEA会員の海外研究者によるオンラインセッションでは、佐藤真帆国際局員（前InSEA評議員）による司会進行のもと活発な質疑応答も展開されました。昼休みには、参加した全会員を対象に、投稿説明会を実施しました。今年度より変更された論文投稿区分や定義、査読体制や査読ルールなどに関して、立川論集編集委員長と池田副論集編集委員長により説明がなされました。昼食後には、コロナ禍に中止していた懇親会を4年ぶりに実施し、西村理事の進行によるアイスブレイクの名札作成などを経て参加者同士の研究交流が和やかに行われました。また、大会終了後には全日本美術教育会議の準備会が開催されました。

全体を通して、コロナ以前の発表会に回帰しながらも、より充実した研究交流の場として開催することができました。本発表会にご参加の皆さま、研究局、国際局をはじめとした理事・運営委員の皆さまのご支援とご助力に感謝申し上げます。第59回発表会のご参加もお待ちしております。



事業局より

■2024年度公益社団法人日本美術教育連合 造形・美術フォーラム〈報告〉■

事業運営委員 岡田京子

日時：令和6（2024）年9月1日（日）13：00～15：00

形態：zoomシステムを用いたオンライン方式（無料）

演題：『ヒトはなぜ絵を描くのか：表現の原点について考える』

講師：齋藤 亜矢氏 京都芸術大学 文明哲学研究所教授

造形・美術フォーラム2024は、京都芸術大学文明哲学研究所教授の齋藤亜矢先生からご講演をいただきました。台風の影響により全面オンラインでの開催となりましたが、77名の参加がありました。

はじめに、チンパンジーは個体によって様々な画風があること、しかしチンパンジーは、表象（何かとわかること）は描かないこと、「無い目」を描くかの実験では、チンパンジーは「無い目」を補って描かないが人は2歳前半ぐらいから補って描き入れることなどの話がありました。チンパンジーと人との違いは、「想像力」の違いであり、特に「見立ての想像力（パレイドリア）」が重要だということでした。アルタミラの洞窟でも岩の凹凸や亀裂の一部を活用していることから、人が絵を描くきっかけは、パレイドリアをもったからなのではないかということでした。また、人の2歳半ごろは語彙が増える時期であり、人間は言葉で世界を分けることから、あいまいな形があればあれば何に見えるというパレイドリアが働き、子供は見ているものかくというよりも知っているものを描くのではないか、小さい子供が友達や兄弟の真似をしながら新たなスキーマを獲得していくが、そのスキーマをアレンジして自分の表現にしていく状況がある中で、先生が「こうかきなさい」と指導するのは、絵が苦手な人をつくる大きな原因になっているのではないかという、子供に関わる全ての人と共有したいと感じるご指摘もいただきました。「ヒトはなぜ絵をえがくのか」については、「面白いから描く」という内発的動機付けがあるということが印象的でした。根拠として、類人猿も絵を描くことに対しては報酬（食べ物）はいらぬということ、そこには絵としての結果より探索のプロセスが面白く、そこからイメージの想起やイメージの外化が面白くなっていくのではないかということでした。これらのことから、芸術教育では「その子供が面白いと思えることができる状況をつくる」ことが重要という言葉が心に強く残りました。人の脳が大きくなったきっかけは、手を動かすことであり、複雑な石器づくりをすることにより、未来を創造する力、計画力、言語能力、共感する力など、たくさんの認知機能も発達したのではないか、表現の可能性として、既存のスキーマを壊し、そこに新たなものを見出すことが重要であるということでした。ご自身の経験として愛犬が亡くなったときに絵を描いた話をしてくださり、絵を描くことの行為としての意味も示していただきました。最後に、表現の原点は、「役に立たないモノやコトをおもしろいと感じる遊び心／ものづくりによる心の発達／見立ての想像←言葉の発達／枠組み（固定観念や既成概念）をこわす→創造」であるということをお話いただきました。

■2024年度公益社団法人日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座」〈報告〉■

事務局担当理事 三 澤 一 実

■第1回 「“計画しない！”偶発と共創の場のデザイン—VIVISTOP NITOBEの取り組み—」

日 時：2024年9月22日

講 師：山内佑輔（新渡戸文化学園／VIVISTOP NITOBE 学習環境デザイナー／エスノグラファー）

参加人数：15名（会員6名 一般6名 学生3名）

概 要：講師の山内佑輔氏の活動拠点であるVIVISTOP NITOBEを会場に、様々な擬音が書かれた『Otography（オトグラフィ）カード』や折り鶴などを用いて参加者同士によるディスカッションを行いました。またVIVISTOP NITOBEの歴史やコンセプト、実際に行われている活動に関するお話を伺いました。参加者からは「色々な所属の方々が、素敵な環境の中で集えたことがとてもよかったです。」「制作環境の大切さに関して多くの学びがありました。」という意見も出されるなど、新しい価値を生む学びの環境について体験的に学ぶ機会になりました。

■第2回 「映画美術監督に学ぶ映像表現との出会い」

日 時：2024年11月30日

講 師：金田克己（映画美術監督）

参加人数：19名（対面9名 オンライン10名）

概 要：映画美術監督の金田克己氏を講師に迎え、映画美術についての解説とともに、実際に金田氏が携わってきた映画について、具体的なロケハンでの出来事や、資金調達の話、シナリオと映画美術の関係や、独創性・個人の表現とは異なる美術の世界についてお話いただきました。

参加者からは、「想像していた映画における美術監督と実際は大きく違っていました。また、個人としての表現よりも、その映画のコンセプトにおける集団としての感性の表現は、ややもするとアートを中心に考える者にとっては、見落としていたところかもしれません。」といった感想も寄せられました。

■第3回 「文化芸術×教育×生涯学習～障害児との活動から～」

日 時：2024年12月8日

講 師：柴崎由美子（NPO法人 エイブル・アート・ジャパン代表理事）

参加人数：46名（対面17名 オンライン29名）

概 要：NPO法人 エイブル・アート・ジャパンの初期から行動されてきた柴崎由美子さんを迎え、障害者とアートの実践が切り開いてきたこれまでの実績と今後の可能性について多角的に理解する機会となりました。特にハイブリッドによる利点を生かし、作品と共に制作者である当事者の方が2名登壇し、生の語りを聞きながら鑑賞できる貴重な機会となりました。会場の内外との双方向性の高い研修会を実現することができました。

国際局より

■InSEA (国際美術教育学会)第38回チェコ世界大会「会員美術展」のご案内■

国際局局員 (InSEAアジア代表世界評議員) 片 桐 彩

来る7月21日から25日までチェコ共和国オロモウツで開催される第38回世界大会がいよいよ目前に迫って参りました。現在チェコ大会運営委員会及びヨーロッパ地域評議会を中心に、様々な計画がより具体化してきている模様です。大会の暫定的なスケジュールは以下の通りです。参加予定の皆様には、定期的に情報ご確認の程お願い致します。(https://www.inseaconference.com/general-information、2025年3月現在)

Tentative Programme Overview

2025 InSEA World Congress

Monday 21 July	Tuesday 22 July	Wednesday 23 July	Thursday 24	Friday 25 July
Opening Ceremony Keynote speakers	Parallel sessions Parallel workshops	Parallel sessions Parallel workshops	Parallel sessions Parallel workshops	Tours
LUNCH				
Keynote speakers	Parallel sessions Parallel workshops	Parallel sessions Parallel workshops	Parallel sessions Parallel workshops	Tours
Welcome drink Cultural program	Cultural program	Cultural program	Closing Ceremony Gala Garden Party	

今回の世界大会は、現地参加に限らず、多くの皆様にチェコ世界大会を楽しんでいただけるような企画もあります。それらについてご紹介させていただきます。

■InSEA Members' Art Exhibition 「Unexpected Territories」のご案内

チェコ大会に参加する会員（現地・オンラインともに）は、会期中に開催されるInSEA会員美術展への参加が可能です。これは、会員の皆様が制作された美術作品の展示を通して世界各国の会員が交流を深める企画です。

現地参加の方が出品を希望される場合は、作品を直接ご持参いただくようお願い致します。オンラインでご参加の場合は、7月13日までに作品の画像を担当者にお送りいただくと、オロモウツ会場の展示エリアにて、スライドショーで上映されます。詳細は、下のQRコード（画像中央）からアクセスしてご確認ください。

■参加型仮想空間「Our Personal Unexpected Territories」のご案内

チェコ大会専用ウェブサイト内には、大会参加の有無に関わらず、興味のある方ならどなたでもアクセス可能な、参加型仮想空間が設置されています。これは、メディアを世界と共有し鑑賞できるスペースになっていますので、学校やコミュニティー等の活動でもご活用いただける企画ではないかと思えます。（右下のQRコードからアクセス可能です。）



■InSEA E-newsへ情報をお寄せください

InSEAでは、会員の皆様からの有益な情報を随時募集しています。発信可能な情報がありましたら是非ご紹介ください。その際、数行の説明文と関連する画像1枚をご提供いただけますと幸いです。InSEAウェブサイト内の「Upcoming Events」のコーナーに、E-newsの締め切り日が表示されますので、そちらもご参照ください。

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉 宇佐美明子様、平野英史様
 (これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)
 〈入会者〉 飯田成子様
 (これからどうぞよろしくお願いたします)

□『日本美術教育研究論集 第58号』が発刊されました

すでに会員の皆様のお手元に届けられていることと思いますが、今号の論集は20本の優れた論文と2本の海外研究者の発表抄録を掲載することができました。ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただきますようお願い申し上げます。

□令和6（2024）年度の会費納入をありがとうございました

本会の運営は、公益に資することを第一の目的として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っております。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「第58回日本美術教育研究発表会2024」「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2024」を開催し、それぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただくこととなります。昨年度の会費をまだお納めでない方は、至急ご入金いただきますようお願いいたします。また、異動や住所変更等の際には、ホームページのお問い合わせ欄から、事務局までご一報いただければ幸いです。

○昨年度（2024年度）会費未納の方は、急ぎ会費6,000円を下記まで納入してください。

（※本年度（2025年度）の会費納入については、次回のニュース174号（7月発行予定）にてお願いをする予定です。）

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

■ホームページがリニューアルされます

事務局では、よりわかりやすい情報の発信とアクセシビリティの向上を目指し、現在ホームページのリニューアルを進めております。お問い合わせ欄も新たに設けますので、入退会や研究発表のことなど、ご質問やご不明点はお気軽にお問い合わせください。近日公開予定ですので、ご確認いただくと幸いです。

■お問い合わせ先（事務局）

北海道教育大学 岩崎仁美（E-mail : iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp）



■令和7（2025）年度 第15回定時総会 招集通知■

令和7（2025）年度第15回定時総会を下記のように開催いたします。総会前には記念講演会を行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日 時：2025年5月11日（日）午後15：15～16：15（※総会記念講演会後の開催です）

■場 所：明治学院大学 白金キャンパス 1252教室（予定）

■方 法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

・ミーティングID：897 8613 5728 / パスコード：981082（会員専用）

・入室のための上記の情報（URL含む）は、5月1日以降に連合HPにも掲載予定です。

・オンライン参加の方はニックネームでのZoom入室はご遠慮ください。

お名前を確認の上、入室を承認させていただきます。

・当日、Zoomでお困りの際は連合公式メール（info@insea-in-japan.or.jp）までご連絡ください。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください

定時総会の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」（委任状含む）を返送していただきますようお願い申し上げます。

*総会議案は5月1日以降、連合ホームページ（https://insea-in-japan.or.jp/）に掲載いたしますので、ご質問などは連合公式メール（info@insea-in-japan.or.jp）をお願いします。

■《令和7（2025）年度 総会記念講演会》のご案内■

■日 時：2025年5月11日（日）午後13：30～15：00（※定時総会前の開催です）

■場 所：明治学院大学 白金キャンパス 1255教室（予定）

■方 法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催

■申 込：Peatix/QRコードよりアクセスして申し込み（詳しくは、ニュース案内・HPを参照）

■講演者：海老塚耕一

■題 目：「多摩美術大学生涯学習プログラム『あそびじゅつ』が目指したもの」（仮）

*総会記念講演会へは会員以外の方も自由に参加できます（参加費無料）。ぜひ広く呼びかけてご参加ください。